

□議員名：吉永 美子

1 環境問題について

論点	環境教育の推進及び学校施設のZEB（ゼロ・エネルギー・ビル）化の推進について、どう考えているか。
回答	現在、既存の学校施設について、予算の範囲内で、まずは照明のLED化から進めている。学校施設をZEB化することは、子供たちが持続可能な社会について考えるきっかけとなることから、引き続き学校施設のZEB化を通して、環境教育がより身近なものとなるよう努めていきたいと考えている。

論点	埴生小学校は新校舎を建設するに当たり、平成30年度にエコスクールプラスとして認定されているが、埴生小学校の省エネルギー効果及び教育効果をどのように捉えているのか。
回答	太陽光発電の発電モニターを昇降口に設置し、子供たちが日常的に目にすることができるよう配慮している。そのため、理科や社会科、技術家庭科において、環境やエネルギーについて学ぶ際には、省エネルギーの仕組みや効果について、より身近なこととして学ぶことができている。

論点	高千帆小学校は新しい校舎を建設していくわけだが、エコスクールを意識して進めているか。
回答	建築工事として木質系床材の採用や複層ガラスの採用、電気設備工事についてはLED照明の採用、機械設備工事としては熱交換型換気設備等を採用している。エコスクールプラスの認定が受けられなかったもので、今後の改築等については意識して研究していきたい。

論点	市役所への緑のカーテン設置について、庁舎を改修するに当たり、市民から見える取組として提案していたが、状況はどうか。また、緑のカーテン写真展について、教育委員会との連携はどうか。
回答	別館の建築住宅課南側の花壇に設置するのが最適との結論に至り、現在そちらにゴーヤを植えている。学校への緑のカーテンについて

	は、教育委員会にも設置についてお願いしている。
--	-------------------------

2 地方創生臨時交付金について

論点	公明党の主張により拡充された「原油価格・物価高騰対応分の地方創生臨時交付金」の活用について、国の趣旨を本市ではどのように反映するのか。また、給食費据え置きのために使う考えはあるか。
回答	臨時交付金の趣旨に沿い、生活者や事業者の負担軽減を図ることができるよう、既存事業への財源充当を含め、有効に活用していく。給食費に使用する考えはある。

3 市民の声について

論点	独居高齢者が増えている状況の中で、高齢者が気軽に相談できる「高齢者なんでも相談窓口」の設置を求める市民の声をどう受け止めるか。
回答	地域包括支援センターがなんでも相談窓口となっているが、議員指摘のように、実際に相談窓口が分からないという市民もいることから、認知度に関する課題は残っているのではないかと感じている。分かりやすく表記するところから考えたい。

論点	学校には多くの市民がボランティアとして訪問するが、洋式トイレがないとの市民の声もある。改善できないか。
回答	現在は、屋内運動場のトイレの洋式化に取り組んでおり、屋内運動場の洋式化が完了すれば、まず先に児童生徒の使用する校舎の洋式化に取り組んでいきたいと考えている。

4 公共施設使用料の整合性について

論点	昨年9月議会で取り上げた学校体育館と公民館の体育館使用料の違いについて、どのように検討したか。
回答	昨年度、利用者の要望を確認するため、学校施設利用団体にアンケートを実施したところ、56団体より貴重な意見を頂いた。利用時間帯区分に関する質問については、特に意見はなかった。料金設定

	への質問については、「なし」、「妥当」が44団体であり、「安くしてほしい」という団体は8団体だった。このアンケート結果を下に協議を進めてきたが、現在の施設使用の時間区分について大きな問題はないように思うので、現状のままと考えている。今後とも定期的に利用者の意見を聞いて検討していく。
--	---

5 糸根公園の整備について

論点	糸根公園の中に整備された天文館は、長年にわたって住民に愛されてきたが、今年度末をもって閉館の予定である。その歴史が後世にきちんと引き継がれていくために、糸根公園内に資料館を設置すべきではないか。
回答	青年の家や天文館を含む糸根公園については、現在、都市計画課が主体となり、公園全体を一体的に整備する糸根公園整備基本計画の策定業務が動き始めたところである。今後、本計画の策定が進むにつれて、新しいコンセプトの下、様々な意見を聞きながら公園機能の見直しを行う中で検討していくことになる。

論点	議会が市民懇談会を開催した際、記念碑を設置できないかとの意見が出たが、どう考えるか。
回答	今度策定される計画の中で記念碑の声があることを伝えて、市長部局にバトンタッチしたいと考えている。

論点	地域住民が署名運動を起こしたが、その思いをどう受け止めているのか。
回答	教育委員会として、天文館については閉館後もその功績を長く残していくために、プラネタリウムの上映の様子や投影機などを撮影し記録資料として作成を進めている。閉館後、様々な場面を活用して、皆さんの目に留まるようにしていきたいと考えている。また、市長も教育長もしっかりと住民の思いは受け止めており、市長部局としても教育委員会と一緒に連携を図り、進めていきたいと思う。